

## 5) シェルター・センス

## 〈地球が燃え、大地が揺れる時〉

シェルター・センス誌は、今回、数多くの動物の命に責任を持つ我々にとって、常に重要な問題となっている分野、災害に対する備えと対応を特集している。以下の記事は、こうした問題に取り組んできた人々の実践的経験から得られた豊富な情報である。私の机の上にそうした記事が押し寄せてきた時、例えて言うなら、私自身の思い出もまた、まさに洪水の様にあふれてきたのであった。

1989年10月、私が何ヵ月にもわたる困難を乗り越えて建設にこぎつけたサンフランシスコのシェルターは、当時、オープンしてからわずか五ヵ月しかたっていなかった。そこは最先端の施設で、スタッフはよく訓練され、非常にレベルの高い活動を行っていた。私と妻は多少心を残しながら、美しい南西部にむけて休暇に旅立ったのであるが、飛行機をおりてほんの数時間後、その休暇はニュース速報で中断された。我が町、我が家が大地震で崩壊したのである。

これほどの大災害の際、離れた土地で自分の人生が変わっていくのを知ること、しかも自分の手に負えなくなるばかりか、その形まで変わってしまうのを見ることはとても耐えがたい。ニュースを見て、誰かに電話をかけようと何とか試みたが、電話線が限られていてつながらず、そんな時目に浮かんだのは、火の付いた家に閉じ込められたわが家の犬や猫達、壊れた建物の中にいる負傷した友人達、がれきと化したシェルターの姿だった。

私達は中でも恵まれていた。友人、家族、動物の被った被害は、恐怖を経験し、不自由な思いをただけで、施設もうまく難を逃れた。壁に数本の亀裂が入り、緊急用発電機の容量を上げる必要性のあることが分かった程度で済んだのだ（通信室と立ち入り冷蔵室は、両方とも電源が確保されるよう必ず確認すること。）。スタッフは、まさに英雄だった。壊れた建物の中から動物を救出し、被災した動物をその後何日も何週間も手当てを続け、苦痛を和らげ続けたのである。

1991年10月、自宅で過ごしていた穏やかな週末は、一連の電話で妨げられた。それは、地方動物愛護団体と動物保護管理機関の非公式ではあるが強力なネットワークを起動させる電話だった。湾の丁度反対側のオークランドの町を取り囲む丘が燃えて、全く手のつけられない状態になっていた。まず私は、中央司令部に連絡をとり、私の管轄外となるその地域への対応と追加の救援隊を結成する為に必要な時間外勤務を行なう許可を取った。その後、連絡先リストに載っているその他の機関に電話をかけた。

今日に至るまで、依然として我が国史上最悪の一つとされるその災害現場に向けて、近隣の地域から車やトラック、バンなどで公務員達が駆けつけた。翌日私は、市警察の護衛で現場に到着したが、それはあたかも別の惑星に足を踏み入れた様であった。家や車は、ねじ曲がり、変形し、黒い金属と化していた。かつて友と歩いた山腹は今や丸焼けとな

り、数多くいた鳥たちは一羽もいなくなっていた。それでも時として、そのままに残っているものに出会うこともある。三輪車、焼けずに残った家の塗り立ての壁、バーベキューグリル等である。その後数週間行われた捜索の結果、驚くほどの数の動物が生きていることが分かった。初期対応に参加したシェルターのスタッフの多くは、素晴らしく献身的なボランティアと共にその後も捜索を続けた。

地球が燃え、大地が揺れ、この世が終わるのではないかと感じる時がある。そうした時にも、皆さんは自分の仕事を続けることが求められる。この後の記事が皆さんの参考になればと思う。

ケニス・ ホワイト

米国災害救助協会（HSUS）副会長

コンパニオンアニマルズ&フィールドサービス

(注：HSUS=The Humane Society of the United States)

# 〈最悪に備えて—動物愛護団体の防災計画ガイド〉

ロンダ・ルーカス・ドナルド

アンドリュー台風、1993年の中西部大洪水、カリフォルニア大地震、ジョージア州とテキサス州にまたがる大水害、山火事、施設に近接した高速道路における化学薬品の流出、地域に警告を発する汚染水。規模の大小にかかわらず、こうしたことはすべて災害であり、あるいは少なくとも緊急事態である。規模の大小にかかわらず、こうした緊急事態は、いつでも地域に生息する動物たちに対して脅威を与えるという結果を引き起こす。規模の大小にかかわらず、動物愛護団体に援助の要請があるだろう。そのため、奉仕対象の動物および人間のニーズに応えられるよう準備をしておかなくてはならない。

防災計画と言っても、人間の本質から誰も「自分の身には起こらない」という意識を心に抱きがちである。ポイントは、災害が間違いなく発生するということであり、またどこにでも発生するということだ。例えば、この国のほとんどの州が断層の上またはその近辺にある。先頃のカリフォルニア大地震の惨劇を二度と経験することはないかもしれないが、その反面自分の町を通る高速道路で有害な化学物質を積載した大型トレーラーがまっふたつに折れ曲がるかもしれないのである。

確かに、集中的な被害が発生し、結果的に最も世間の注目を集めるのは中西部の洪水やアンドリュー台風などの災害である。HSUS南東支部局長のローラ・ビーバン氏は、アンドリュー台風の後に次のような報告書を作成した。「混乱の中で死んでいった動物は、膨大な数に昇る。時速135キロの突風で建物は倒壊、馬は馬小屋から逃げ出し、犬や猫は恐怖の余り家を飛び出した。また霊長類、大ヘビのボア・コンストラクター、鳥類など多くの外来動物（エキゾチック・アニマル）が動物園や輸入拠点、個人収集家の飼育施設から逃げ出した。」

ビーバン氏は大規模な災害救助活動に数多く参加してきたが、一方で比較的小規模の緊急事態がもたらす悲しみもこの上なくよく知っている。ビーバン氏はドライヤーが発火した後シェルターがどのように全焼したかを思い出す。この火事で動物70匹が死亡、さらに多くの動物がケガをしたのであった。

## 二つの要素をもった防災プラン

大きな災害は注目されるが、いつ、どこにでも発生する可能性が高いのは小規模な緊急

事態の方である。どちらの場合にも対応できるよう準備を整えるため、シェルターの包括的防災プランに二つの要素を盛り込んでおかなければならない。一つは、緊急時の防災用具や備品、連絡先および電話番号をいつでも手元に置いておき、明日にでも発生するかもしれないシェルター内部の緊急時に備えること。もう一つは、自分の住む地域社会全体に影響を及ぼす大規模災害が発生した場合のために、動物の救助や人々の援助など付加的条項を含めたグローバルな計画を立てておくことである。

防災プランは一連の指示や連絡先を書いただけの書類ではない。シェルターにとっての防災対策は、協力体制や事前の準備、スタッフのブレンストーミング、生活用品や備品の調達、ボランティアの募集とその訓練、避難準備、他団体とのコミュニケーションとネットワークづくり、一般市民の教育・管理などを必要とする一連の行動の結果なのである。シェルターが火事になった際に自分のとる行動と、居住地域内で洪水が発生した場合にとる行動とは異なるであろうが、防災計画は、自分の団体がどちらの場面でも活動できるよう詳細かつ寛容な内容を持っていなければならない。

## 第一段階：計画立案

防災プランを系統立てて計画する際、答えに窮する最大の質問はおそらく「どこから手をつけるか？」というものであろう。緊急時または災害発生時の対策を計画する上で最初にやらなければならないことは、スタッフ全員を招集してブレンストーミングをすることだとHSUS調査官のエリック・サカチ氏は述べている。サカチ氏は地震から山火事まで広範な災害に関わってきたベテランである。「ブレンストーミングは、普段の仕事ぶりからはわからないような各スタッフの持つ能力を見極める上でかなり有効な方法である」と彼は言う。「例えば、ボーイスカウトやガールスカウトに加入している人もおり、そのような人たちは、あらゆるサバイバルの技術を熟知しているだろう。」

防災計画についてブレンストーミングする際、発生しそうな出来事のシナリオを想定してその解決策をスタッフみんなで考えることをサカチ氏は勧めている。「例えば、自分の方向に火の手が勢いよく迫ってきたらどうするか？ スタッフの安全を最大の関心事とする一方で、動物たちをどうやって避難させるか？」。サカチ氏は「ダイナミックに考えれば、どんなことでも解決できるだろう」と言っている。

「最悪のシナリオを想定すること」とアドバイスするのは、ロサンゼルス郡動物保護管理局（所在地は11258 S. Garfield Ave., Downey, CA 90242）の局長補佐であるボブ・バレンジャー氏である。「一週間いかなる形でも助けを受けないというふうには振る舞うこと。完全に一人っきりになって外の世界と隔絶されること。どんな種類であれ、自分の

ところにいる動物にも新しくやってくる動物にも餌を与えなければならないこと。また、家に帰れずそこに留まるしかない人々の世話もしなければならないことである。」

サカチ氏は、ブレインストーミングのボールローリングを得るため一連の質問を投げかける。

- ・ 停電に備えて発電機を持っているか？ その発電機が作動するために必要な燃料が充分にあるか？
- ・ 水道水が汚染された場合に備えて代替りの給水策があるか？
- ・ 人間に対する応急措置や心肺機能回復蘇生法だけでなく、動物に対する応急手当もできるよう訓練をつんだスタッフやボランティアがいるか？
- ・ 動物の引き綱、首輪、馬具、オリや鳥かごなど、あらゆる動物を迅速かつ効果的に移動させるに必要な道具が充分にあるか？
- ・ 危機に瀕している際、野生の動物を扱う手だてがあるか？（6 ページのコラムを参照）
- ・ 他の団体と援助に関する取り決めを結んでいるか？
- ・ 任命され、共通性のある義務と責任のある指揮系統が確立しているか？
- ・ 通信のための電池式携帯用ラジオと緊急用発電機につなげられる充電器具があるか？

さらに「些細なこともおろそかにしてはいけない」とピーバン氏はつけ加える。「ちょっと小さなことを考えてみる。普通は考えないような些細なこと、例えば、ごみ袋やはさみの有無が緊急時には大問題になる。」と言う（様々な種類の緊急時に備えて手元に用意すべきもののチェックリストについては、12ページを参照のこと）。

回復を妨げるのは、多くの場合、こうした「些細な」ことである。「危機に瀕した際、時として反射的に行動しなければならない。」と言うのはシール・ロストスキー氏で、同氏は米国赤十字社の災害奉仕局に所属し、政府および民間団体と提携している。「しかし、適切なプランがあれば、貴重な時間をその解決に当てなくてもよい。例えば、動物用の水と食料をあらかじめ確保しておけば、心配すべき事項が一つ減ったことになる。」

これは特に小規模な災害の場合や、シェルター設備それ自体にのみ影響を及ぼすようなものの場合に非常に重要となる。シール氏は続ける。「大災害が起こり、頻繁に報道がなされていれば、もっと多くの物資が手に入れられるだろう。なぜならば、ほとんどの人がそれを見て知っているからだ。全国版のニュースにならないような小規模な災害の場合は必ずしもそうではない。だからこそプランニング、物資の熟知、何事も起こらない前に適切な取り決めをしておくことが非常に重要なのだ。」

計画立案に際して心に留めておくべきもう一つのことは、その計画が一般的であり、かつ、柔軟性を有する必要があるということだ。「ある特定の災害に関する対策を立てることは不可能」とバレンジャー氏は言う。「できることは、ただ準備を整えておくこと。柔軟性を持ち、創造性を持ち、新しいものを取り入れる心を持つ必要がある。」

## 一人だけではがんばれない

防災計画立案にはシェルター職員だけではなく、外部の団体の協力も同様に必要である。小規模災害と大規模災害の双方を包含する完璧なプランを開発するためには、合衆国政府および地方自治体の職員と作業して、動物救護も地域社会における防災対策の一環であることを確認させ、一般市民には動物が個人の防災計画に含まれていることを確認させる。

サカチ氏は、通常、公共の動物愛護管理団体と民間の動物愛護組織は異なるということを強調する。「役所の動物管理局は、一般的に言って、政府機関のマトリックスに含まれており、責任が明確である。したがって、動物管理局は、災害時に動物団体をリードすることになる」とサカチ氏は言う。動物管理契約を結ぶ民間の動物愛護団体は、特定の管轄権内でリーダー的なものになりうるが、そうだとすれば、組織の責任の条件は、契約の中で明確に定義されるべきである。契約を結んでいない民間の動物愛護団体でも、シェルター施設があるかどうかにかかわらず、一般的にはリーダー的な動物愛護団体と協力関係を結ぶ取り決めによって、災害時には援助に参加する。

もっとも、他の組織と協力関係を結ぶことは自動的にできるわけではない。HSUSが災害時に米国赤十字社と協力して活動する取り決めを結んでいるように、地域の動物愛護団体も同様の関係を締結する必要がある。その相手は米国赤十字社の地域支部であったり、緊急時の奉仕活動に従事する地域団体であってもよい。

「ネットワーク作りの重要性は、強調してもしすぎることはない。」とHSUS災害救助のプログラム・コーディネーターであるスティーブ・ディックスタイン氏は言う。「政府職員と一般市民に対して、あらゆる緊急準備運動、すなわちシェルター、地域社会そして個人の計画に動物保護計画の要素を含めさせることが非常に重要である。そして災害そのものを克服するために必須なのは協力である。」

多くの地域には緊急時奉仕事務局（OES）または緊急管理計画というものがあり、ここが起点となっている。「地域の緊急時奉仕事務局職員と早急に会い、既存の計画全体と指揮系統を知ることが必要である。地元の緊急時奉仕事務局職員と協議して、自分の団体の提出した計画が、受け入れられたフォーマットに適合するようにすることである。」とサカチ氏は言う。

グループの中には、緊急時職員が計画の中に動物をまったく含めていなかったことを知るものもあるだろうし、動物愛護管理団体に不合理な方法で参加することを要求している計画もあるだろう。例えば、地元の地方自治体が作った計画では、郡内にある車両すべてを公共事業局の管理下に置くことを要求しているが、自分たちの団体で所有する動物統制のための車両が郡内の車両である場合、その全車両を動物救助のために使えるようにする

ために計画を修正しなければならない。

「OES は一つのステップである。」とマリノ動物愛護協会（所在地は171 Bel Marin Keys Blvd., Novato, CA 94949）の隊長であり、野外サービス監督であるシンディ・マチャド氏は言う。「しかし、防災計画に関与している団体は非常に多く、それらを見過ごすことはできない。」（自分たちの団体とネットワークを結ぶ必要のあるそれ以外の組織のリストについては、11～12ページを参照のこと）

災害によって動物がケガをすることは確実であるため、特にネットワークを結ばなければならないグループの一つに獣医師のグループがある。助けを求めている動物を直接的に援助することに加えて、避難する必要が生じた場合に、獣医師は病気のまん延を防止する仮設住宅建設についてアドバイスをすることができる。また、獣医師は、災害に関連して特に発生する医療上の関心事、例えば洪水時に発生した蚊やサシバエによる危険性に注意を向けることができる。

「事前の協力が必要」と述べるのは、防災計画に関するHSUSのコンサルタントで、獣医師のポビー・ママト氏だ。「一番最初からトレーニングとプランニングに獣医師を参加させること。」また、どの獣医師が何を専門とするかについて、例えば大型動物の獣医学といったリストをいつでも見られるようにしておき、専門家の意見が必要となる場合に備えておくことである。

## 相互援助の取り決め

獣医師やOES などのグループと協力することに加えて、シェルターの多くは、近隣の団体と正式な相互援助を約束したり、同じ目的を達成するために非公式の提携を結んだりする。もっと小規模で非営利目的の動物愛護団体は、地元でトップに位置している動物団体と公式な災害防止対応に関する取り決めを頻繁に締結している。

取り決め成立に際しては、設備やスタッフ、その地域で得られる専門知識などを査定することが重要である。例えば、主として犬や猫を扱う都市近郊の動物愛護団体が、緊急時に突然牧場の家畜を受け入れることになったら、そのスタッフは動物たちの住む場所や配置について近くの農村部の団体に援助を求めることができなければならない。

エル・ドラド郡動物管理局（所在地は2301 Cool Water Creek Rd., Placerville, CA 95667）は、設備の比較および災害時に用いる特殊用語を確立するため、近隣の団体と非公式に会合を持った。「森林事務局管内で大規模な火災が発生した場合、特殊な消火チームの出動を要請するだろうし、その消防署員は全員何が必要かわかるだろう。すなわち、ブルドーザーやヘリコプター二機などである。」とエル・ドラド郡動物管理局の部長で

あるバット・クレアバウト氏は言う。「用語を提供したのは当方の団体であるから、その意味は知っている。『動物統制用車両を送って欲しい』と言った場合、これは高性能のトラックで多くのコンパートメントに分かれている車を意味する。他の団体にとっては同じ言葉が、後ろにエアライン・ケネルの着いた屋根無しの小型トラックを意味する場合もある。援助を求めているなら、その求めているものを特定しなければならない。」「隣接する郡と情報を交換し、たとえ一年に一度でもいいから会合を持つべきである。」とクレアバウト氏は言う。「こうしてプランニングすることにより、小さなことに対する救済の見込みを与えてくれる。例え大規模かつ悲惨なケースであって、膨大な数のウサギを収容する必要が生じて、足りないオリをどこで借りられるかすでにわかっているのだから。」

## 訓練の行き届いた要員たち

最悪のケースのシナリオでは、外部からの援助が遮断されることもあるだろう。したがって、自らのスタッフを訓練しておくことが計画全体の中で非常に重要な部分となる。HSUSなどのグループが防災トレーニングコースを提供しているのに加えて、「災害時に他の団体にボランティアとして参加することにより、シェルターも緊急時の処理方法を学ぶことができる。人々がボランティアや援助活動にもっと頻繁に参加すれば、自分自身ももっと効果的な災害対策ができるだろう。」とクレアバウト氏は述べている。

ボランティアが災害救助の訓練を受けるよう取り計らうこともまた大切である。どんな災害の場合でも、援助を求める動物愛護団体に善意の人々がやってくるだろう。厄介なのは、そうした人々が選別されておらず訓練も受けていない場合に、問題をさらに悪化させるだけだということである。ボランティアをうまく使う秘訣は、そうした人たちを事前に訓練しておくことである。「時間的余裕を持ってボランティアを組織しておくこと」をクレアバウト氏は勧めている。「経験のあるボランティアが一人か二人でもいれば、その人たちを使って他のボランティアに教えることが可能だ。そのボランティアが自分の組織とポリシーを知っているという信頼感をもつことができるため、災害が発生した場合、彼らにたった今玄関先に現れた新しいボランティアの統制をまかせることができる。」

動物愛護団体が、訓練を受けたボランティアを探している場合、地域レベルで関与することが役に立つ。例えば、クレアバウト氏は、地域の防災計画セミナーに参加したことによってボランティアをたくさん見つけることができた。セミナー参加者の多くが動物の救援に興味を持っていたため、自分たちのグループが求めている理想的なボランティアだということがわかったのである。ボランティアグループは、訓練または地域的救援活動計画

の手助けをするため、一ヶ月に一度会合を持つ（オハイオ州にある同様のグループについては7ページのコラムを参照のこと）。

災害救助活動の経験がないボランティアでも、仕事をどっさり背負ったシェルターには手伝うことがたくさんある。「集合場所に集まったボランティアに、自分たちが役に立っていると感じられるような仕事で簡単なものを与えること」とマチャド氏は言う。「オリの掃除や段ボール箱の運搬、食料保管場所を取り仕切ったり、犬の散歩をさせたりすることもできる。ボランティアは毎日の仕事がスムーズに運ぶように、隙間を埋めるような仕事ができる。例えば、ごみを集めたり、事務スペースを残骸で占領されないよう注意したり、人々の調和を図ったりすることである。」

外部からの援助を受ける場合、救助活動の統制を維持するよう注意しなければならない。みんなは善意の人であるものの、外部の動物福祉団体やボランティアグループの中には、実際に協力どころか混乱を招いているものさえある。もっとひどいのは、災害救助に参加している人々の中に、動物を助けるどころかバンチャー（調査のために用いる動物を手当たり次第にいろいろなところから手に入れる人）のように動物を食い物にしている人がいることである。「中西部大洪水の際、バンチャーが入ってきているというニュースが報じられた。」と言うのはマジソン郡動物愛護協会（153 Arlington Dr., Granite City, IL 62040）のシェリー・ハーパー氏。「動物に接近しようとしている時、バンチャーは動物愛護団体を装っていたと報じられている。」

## すみかを失った動物用シェルターの設立

地元の他の組織や獣医師、訓練を受けたスタッフ、役に立つボランティアと協力の取り決めを結ぶことは、通常、大規模災害において最も気力をそがれる任務をシェルターが遂行できるよう手助けをするためにすべて必要である。それは避難先のシェルターから動物を移動させたり、他の場所に仮設シェルターを作ったりすることである。

事前の計画および訓練がなかったら、動物を施設から避難させることは悪夢である。シェルターは、すべて代替となる適切な施設を探しておくとともに、必要なオリやフェンスを確保し、避難が必要となった場合に動物を移動させるために、十分な時間的余裕をもって取り決めを結んでおく必要がある。

緊急事態が発生する前に予備の土地を確保しておくことは、米国赤十字社がくり返し力説してきた教訓である。「赤十字が（人間用）シェルターを空けておく必要がある場合、適切な取り決めを事前に結んでおかなければならない。」とロストスキー氏は説明する。「そして夜中の二時にドアを開けるのであれば、名前と電話番号を聞いておかなければな

らない。」

いくつかの災害のケースでは、動物病院であろうと、家畜小屋であろうと、当座しのぎのすみかであろうと、仮設シェルターを建設することは、現在の施設が機能し続けている時でも必要となる。シェルターは災害で迷子になったペットで溢れるだけでなく、避難しようとしている飼い主にとって臨時にペットを預かってくれるところが他にないため、そのペットの面倒を見て欲しいと頼んでくるのが頻繁にあるからだ。

一般的な原則として、公衆衛生および安全の面からという理由で米国赤十字社と救世軍のシェルターは、動物を受け付けていない。しかし、こうした機関はペットのオーナーに紹介状を渡して、仮設シェルターに入れさせてあげるという方法で手助けすることもできるだろう。こうした理由から、米国赤十字社などの救済機関と連絡を取り合って、自分の団体の動物用シェルター施設の場所や、ペットのオーナーがそれを見つける方法をこのような機関に通知しておくというのは良いアイデアである。

「人間と動物と一緒にいられるよう、人間用シェルターのそばに動物用シェルターを作ること考えてみよう」とマチャド氏は言う。「こうすれば、動物の飼い主を使って自分のペットのために働かせることができる。自分の犬は自分で散歩させること。こうすればスタッフがオリを掃除するチャンスが持てるようになる。」

危険の中をやって来た動物を里親として育てるよりは、仮設シェルターの方が好ましいが、里親になるのは最後の手段として必要になる時があるかも知れない。シェルターは、動物を外へ出す前にすべての里親の家庭を徹底的に審査しなければならないため、シェルターは計画の一部として以前審査した里親家庭のリストを手元に残しておくべきである。

団体の中には里親をまったく認めないところもあるが、それにはきちんとした理由があつてのことだ。「危険な状況では、動物の里親になることは得策でない。」とバレンジャー氏は言う。「あまりに無秩序であり、加えて動物を探すために常時人が出入りするという状況になる。どこかでペットの里親を始めれば、動物を見つけるためにいたるところに人を送ることになる。人を分散させるのではなくて人材を集めておくことが必要なのだ。」

シェルターの動物たちを里親に預けたり、仮設シェルターに移した後に生ずる混乱によって、こうした動物たちの記録をつけることが困難になる。緊急時にはすべてを簡素化する必要があると言うのはバレンジャー氏だが、それには各組織のつける記録も含まれている。「ポラロイドカメラでペットと飼い主の写真を一緒に撮り、運転免許証ナンバーなどの必須の情報を書き込めば、これで記録となる。」とバレンジャー氏は言っている。

「私たちは、通常オリに下げる札を使っている。しかし普通ある物が次第になくなり、紙とエンピツの時代に戻るのである。」

動物愛護団体はまた、動物が動物園などの施設から逃げ出したり、避難したりするような場合にも備えておかなければならない。「近隣地域内に動物園やサファリパークがある

場合、そこの責任者と会って緊急時における園側の計画について話し合うよう取り計らい、また、現在いる動物のリストのコピーをもらうこと。」とサカチ氏は言う。「例えば、自分のACOが動物が放し飼いの状態になっているような区域に入ってしまうといけないため、自分の団体の計画とかみ合っている緊急時対策プランができているかどうかを確かめることである。」

「また、知り合いのブリーダー、ペットショップ、動物ホテル、個人のシェルター、獣医診療所、野生動物・外来動物の許可証保持者、厩舎、畜産施設のリストを作成すること」とサカチ氏は言う。このリストには連絡先の名称と所在地、自宅と勤務先の電話番号を記載しておかなければならない。

緊急時においては、動物に対するニーズというものは、動物園やブリーダー、同じ区域で多数の動物に場所を提供している人々や組織との間における哲学的な考え方の相違に優先するものでなければならない。「こうした人たちと哲学的見地について議論することは構わないが、いつでも災害に対する準備および対応に関連して話しをすること」とピーバン氏は言う。「災害時には議論はすべて後回しにして、お互いに助け合うことが必要なのである。」と。

## 人間の援助は動物の援助

最初はわからないかもしれないが、防災計画は準備万端整えること以外にも組織にとって恩恵を与えることがある。計画立案のプロセスにおいて、シェルターは尊敬を得たり、重要な関係を築きながら同じ地域の他のグループと連絡を取り合うだろう。「災害に備えた計画を立案し、災害時に活動することは、世間にアピールするためのよい方法である。」とクレアバウト氏は言う。「自分たちの活動のいい面を全部見せ、またこの活動に関してどれだけすぐれた能力があるかを示す絶好の機会である。」

また、「動物の世話をするために人間の要求をないがしろにする」と言って、動物擁護者を批判する人がしばしばいるが、災害の処理を適切に行えば、動物を助けることが人間を助けることだとみんなにわかってもらえるだろう。「放し飼いの動物や動物の死骸、そして起こりうるすべてのことを適切に取り扱わなければ、動物は人間に対する脅威という様相を呈し始めるため、動物は重大な問題になりかねない。」とサカチ氏は言う。

さらに団体は、単に動物に手を貸すことによって人間にも手を貸すことになるだろう。実際、災害が発生した場合には、居住者にとって人間と動物の絆に対する関心がしばしば公衆衛生の問題に対する関心よりも高いことがわかっている。例を挙げると、1983年にオハイオ州立大学で行った調査では、対象となったペットの飼い主のうち28%の者が核爆

弾攻撃のためペットは置いて避難せよという勧告が出されても、その避難勧告は無視すると答えている。

動物救助活動を経験した人たちは、被災者の生活の中で、ペットがほんのわずかではあるが日常性を与えてくれるということを発見した。「家が全焼しても、少なくともペットが自分を知っているという事実からペットが役立つのである。」「ペットがよく面倒を見てもらっていることを知ればとても安心する。」とマチャド氏は言う。事実、人間と動物の絆の強さを認識すれば、災害救援に関する調整の最も重要なキーとなる。「緊急管理スタッフがしばしば認識する心配事は、家族同様に動物の世話してもらうよう取り計らわない限り、お年寄りが被災地域を出るのを極端に嫌がるということである。」とディックスタイン氏は言う。「本質的に、動物はこうしたお年寄りの生きがいなのである。」

## 一般市民に対する教育

シェルターは、災害時における対応の仕方をペットの飼い主に教えることによって「動物を助けることは、人間を助けること」というアプローチをさらに発展させることができる。地域社会全体を教育することにより、ペットの世話を促進するだけでなく、災害が襲った後、シェルター施設の中で息絶えてしまう動物の数を減少させることも可能である。ピーバン氏は言う。「自分で自分のペットの世話をするなら、そのことについては私が後になって心配しなくてもよい。」

マリン動物愛護協会のようにパンフレットやビラを作成して災害時にペットをどのように世話したら良いかについての基本的なアドバイスを教えたり、こうしたガイドラインを一般市民にも配布しているシェルターも多い。「防災計画を練っている最中の住宅所有者協会があったら、その協会と接触して計画の中に被災動物が含まれているかどうかを尋ねること」とマチャド氏は言う。「この方法はとても効果的だ。災害が発生した場合にペットをどう世話するかについてのパンフレットを渡すことができるし、その内容を今度は協会会員に対する防災計画の中に盛り込むだろう。」

ビラを作成する際には、次の情報を盛り込むよう注意すること。

- 避難に関する事前の注意～ペットを避難所で飼うのは通常許されないということを知っておく必要がある。最も重要なこととして、人間はペットを捨ててはならず、家族と一緒に連れていける方法を探すべきであることを明確にすること（15ページ、「再現」の中のアドバイスを参照のこと）。
- 里親制度の取り決め～ペットの飼い主に、ペットを連れていける安全な場所を事前に探しておくよう強く要請する。おそらくは町の外の親戚または友達の家であろう。また、

ペットの名前札には緊急時の電話番号も記載して置くように指導すること。こうすれば、誰もペットの飼い主に連絡が取れなくても、長距離電話の番号に到達することができるだろう。

- ・仮設シェルター情報～臨時にペットの世話をしてもらう取り決めが結ばなかった飼い主のために、仮設シェルターの情報を提供すること（団体は州にペットのシェルターに関する計画があるかどうかを調べることができ、また仮設シェルターや動物の避難手順についての情報を提供するため、災害時に使われるプレスリリースを整えることができる）。

「ペットの滞在を認めているホテルのリストを常に携帯すること」をディックスタイン氏はつけ加える。「その後でペットの飼い主に、ペットを置いていく、という選択肢も与えることができるのである。」

## 最悪のケースに備えて

災害は私たちに、人間や動物の命が瞬時にして失われる可能性のあることを教えてくれた。こうした災害について、もし何か肯定的なことが言えるとしたら、私たちが集まって困っている人間と動物を共に助け合うという力を引き出してくれたのは、災害そのものだったということであろう。

「イリノイ州ドゥ・ロッシュー平原上空を飛行した。ここの住民が皆集まって決壊した堤防を修復し、歴史的に有名なこの町を守ろうとしていた。」と、救助活動の際にヘリコプターから見た町の様子をHSUS動物保護管理の提携者であるサリー・フェケティ氏はこう描写している。「氾濫原全体を砂礫採掘場から採取した砂で覆い、ボランティアたちが一所懸命になって土嚢を作って積み上げていた。驚くべき光景だった。」

動物たちを助けるために人間が必要とする支えとなるのは、こういった形のヒューマンスピリットである。しかし、その支えを動物の命を助け、苦しみをやわらげてあげるという行為に効果的に導くものは、自分たちの防災計画である。最近行われた防災セミナーで「動物愛護団体が、ローマ・ブリータ地震やアンドリュー台風から発生した無惨な壊滅状態に二度と遭遇しないことを願っている。」とサカチ氏は語った。「とは言え、最悪の事態に備えておくことは、最悪の事態が発生する可能性を減らす一つの方法である。」

## 【写真説明】

### 3ページ

昨年の夏ジョージア州で発生した大洪水の際、岸や家に取り残されたペットの捜索のため、水没した町を捜索する動物レスキューチーム。動物の命が早急な対応にかかっている場合、災害発生前からレスキュー用車両、十分なキャリアなどの緊急装備を整備しておくことが重要である。

### 4ページ・左

最近の災害でホームレスになったこの猫は、生きるためには動物保護管理団体に頼るしかない多くの災害犠牲者のうちの一匹に過ぎない。

### 4ページ右

災害の後行方不明になったペットを探す住民は、最後の望みの綱としてシェルターに向かうことが多い。

### 5ページ

地元警察から米国赤十字社まで、他の組織や団体と協力することは、おそらく災害に対する対応を良好に行うための最も重要な要素であろう。

### 7ページ

南東部洪水の際、別のチームのメンバーと打ち合わせをするHSUSのマーク・ポーラス氏（中央）。災害時には、レスキュー活動の能率をアップさせ責任を明確にするために、チームのメンバー全員と定期的にブリーフィング（簡単な打ち合わせ）をすることが重要である。

### 8ページ左

どんな災害であってもシェルターの基本的な役割の一つは、この出来事によって追い出された動物を救援し、保護する中心的な団体として奉仕することである。

### 8ページ右

HSUSは災害により被害を受けた動物を援助する地元民間グループや自治体を支える計画の一部として、昨夏の洪水の際に迷子になった動物用に臨時のシェルターをジョージア州ペーンブリッジに建設した。

9ページ

ペットが生活の中で中心的な役割を占めているという人は多い。この事実を災害時に痛感することがしばしばある。

10ページ

どんな動物愛護団体の防災プランであれ、重要な要素は、自分の仲間であるペットの安全を守るため、事前に防災プランについてペットの飼い主を教育しておくことである。

【6ページ囲み記事】

## 〈 災 害 時 の 野 生 動 物 救 済 〉

HSUS調査官 エリック・サカチ

各地の動物保護団体の防災計画で問題となることの多い点は、移動を余儀なくされたり、傷ついたりした野生動物の救済である。動物保護管理機関の多くは、怪我をした鳥に関するものから車にはねられたタヌキの報告にいたるまで、一年を通じて野生動物に関する電話を受け付けている。しかし、自然災害によって引き起こされる野生動物問題の件数は、多くの施設が自力で対応可能な数をしばしば上回っていることが多い。野生動物を自然に帰すためのプログラムをすでに開始している所を含め、すべての施設は、次の災害が発生した場合の野生動物救済に備えて他の機関や野生動物専門家と連携すべきである。

災害からの野生動物の救済は、ペットの救済とは異なり、一連の条件が伴う。例えば、州漁獲・狩猟管理課は、一般に被災地域の無傷であることが明らかな野生動物は、すべてそのまま手を加えずにおくべきであることを勧めている。その正当な理由として以下のことを挙げている。

- ・捕獲、監禁によるストレスが、動物の健康に害を及ぼすのではないかとと思われる。
- ・動物は、人間や家畜に感染する恐れのある病気を持っているかも知れない。
- ・野生動物は、家畜の病気に感染し易いかも知れない。
- ・野生動物は、捕獲されている期間に受ける手当てや世話に慣れすぎて、自然に帰された後生活力が損なわれる恐れがある。

しかし動物愛護団体は、災害時の野生動物救済にある程度直接的に係わっていくことになるだろう。例えば、地域住民が傷ついた野生動物をシェルターに運び込んだ場合、そこに動物を自然に帰す独自のプログラムがなければ、認可を受けた大きな野生動物救護施設

に移送すべきであるし、手のほどこしような動物については、人道的に安楽死させるべきである。また、もし健康な野生動物が運び込まれて来たら、保護された場所にできるだけ近い場所に放してやるべきである（あるいは地域の漁獲・狩猟区監視員のアドバイスを求めるべきである）。本来、個々の団体は、通常の業務時に負傷したり、病気になった野生動物を取り扱うプランと同時に、非常時に増加が予想される要請に対応する為のプランの両方を備えていなければならない。

州の野生動物管理官の中には自主的にプログラムを準備したり、民間の野生動物を救済し、自然に戻す有能な団体に対してサービスを行うための認可や了解覚書(MOUs)を与えている場合もある。州漁獲・狩猟管理課に照会して、こうした団体の情報や、野生動物移動の際の協力あるいは災害の際の野性動物問題に関する一般的な助言を求めるべきである。

【7ページ囲み記事】

## 〈ボランティアがオハイオ州で動物災害チームを結成〉

HSUS五大湖地区事務所長 サンディー・ローランド

ボランティアのアル・クラップ氏は、動物は好きだがヘビはどうしても苦手だった。しかし、クヤホガ（オハイオ州）危機管理協会(EMA)と赤十字社クリーブランド支部により認可された資格プログラムを終了した後は、ヘビだけではなく混血のオオカミや、他の珍しい動物の緊急の際の取り扱い方を習得していた。

クラップ氏は、24名から成る動物愛護グループの一員で、このグループは今年になって既に6コースの動物非常救済訓練プログラムを終了している。その訓練には、地図を利用した地元地域におけるルートの発見、薬品や薬品の取り扱いに関する知識、災害が人間の心理に及ぼす影響への理解等が盛り込まれていた。参加者たちは動物を診察したり、苦痛のサインや怪我を発見することなどの経験を積み、基本的な応急処置の実習まで行なった。ある授業では実際に家畜を「捕獲」し、家畜の取り扱いに関する貴重な体験をした。

このグループは、1992年、多数の猫が住んでいた家を取り壊され、猫に危機的状況がクリーブランドで起こった後に結成された。状況を案じたクリーブランド地区の住民スー・ガンディッチ氏がクヤホガ郡EMAとアメリカ赤十字に対し、こうしたプログラムを作成するよう働きかけたのである。ペットショップ経営者、ブリーダー、動物管理官、個人の飼い主達がこのプログラムに調印し、現在は公認の動物災害チームのメンバーとなっている。

チームは現在に至るまで、未だ大災害に直面したことはないが、火事に会った家の家族

やペットに対し、ペットフード、必需品、獣医師の診察、避難所等の提供を行っている。  
しかしチームメンバーは、将来襲うかもしれない大規模な動物災害に備えている。

動物災害チームに関する問い合わせはGundich at P.O. 609205, Cleveland, OH 44109  
まで。電話番号は(216) 661-2292。

#### 【写真説明】

オハイオ州クリーブランド動物災害チームのボランティアメンバーは、資格プログラムの  
経験習得コースの中で馬の扱い方を学んでいる。

#### 【10ページ囲み記事】

## 〈 飼い主に災害カードを 〉

もし貴方の施設が、地域の飼い主の防災準備を助ける簡単な方法をお望みならば、この  
緊急災害ケアカードをご利用下さい。

縦7インチ、横3インチのポケットサイズのカードは、災害時、飼い主が愛するペット  
を守るのに十分役立つ情報を提供します。救護施設受入れ用品一式に加えたり、災害時に  
地域の無料配付を受ける際、非常にお役に立ちます。

カードは以下の割引料金（送料込み）で、HSUSからお求め下さい。

- 100枚            7.75ドル
- 250枚           13.25ドル
- 500枚           18.75ドル
- 1000枚          29.50ドル

注文は、「The HSUS, 2100 L St., NW, Washington, DC 20037」宛に小切手か、郵便為  
替でお送り下さい。注文には「災害カード(Disaster card)」と明記して下さい。飼い主  
の為のより詳しい災害対応の説明書は、今月号の裏表紙の内側のリプロデュースブルを  
ご覧下さい。

## 〈有効な防災計画に加えるべきこと〉

HSUS調査官・エリック・サカチ氏、HSUS災害救助計画コーディネーター・スティーブ・ディクスタイン氏及びその他の機関、個人の資料に基づき編集

団体の防災計画をブレインストーミングする際、想定される災害の状況（被害の地理的な広がり、影響を受ける人間の数、災害の持続期間）、そして提供する必要があると思われるサービス、確保可能な緊急要員数、連携すべき関係筋、必要な設備などを予測してみる。シェルターは、独自の記録方法による災害用ファイルを保管し、しかもシェルターそのものに何か起こった場合に備えてシェルターから離れた複数の土地にファイルのコピーを保管しておかなければならない。少なくとも年一回の割りですタッフ、ボランティアに対して、その計画と災害時の各人の役割りに関する指示説明が行われるべきである。

以下の防災計画は、完璧なものではないが、貴方の施設が災害時に安心して頼れる計画を作る際に出発点として役立つであろう。

## 団体に求められる動物へのサービス

計画には、シェルターが種々の緊急時に提供を要請されるあらゆるサービスについての条項を含んでいなければならない。サービスを提供する地域（都市、地理的境界などを含む。）を書き出すことから始めること。次に自然災害（大火、洪水、地震、ハリケーン、竜巻及びその他の自然災害）及び人災（暴動、化学的流出、建物火災等を含む。）に対処する手順に進むこと。動物愛護管理機関が提供する最も共通したサービスには以下のものがある。

- ・動物救助活動を組織すること
- ・動物の保護（猫から牛に至るまで）
- ・動物の収容（施設内又は避難所）
- ・避難した動物の援護
- ・動物の治療
- ・孤立した地域への飼料の配達（車両、船、飛行機、ヘリコプター、電上車などによる）
- ・情報、照会の提供（備えるべき品目の中に災害への備えに関する出版物、飼い主向けの防災教育冊子と情報冊子、ペットを受け入れるホテルその他の旅行宿泊施設の住所録を含めること）

## 緊急時の人員配置で考慮すべき事項

計画にはスタッフとボランティアの完全なリストと、災害時にスタッフが従うべき手順を組み込まなければならない。リストには以下のものが含まれる。

- 団体の全職員名と自宅の電話番号。所長を指揮官としてリストのトップに挙げ、その下に全職員が続く。
- 災害時に喜んで協力してくれる訓練を積んだボランティアの電話番号
- 特殊な訓練や専門知識を有する人員の表記（例えば、野生動物、家畜、珍しい動物の取り扱いに慣れている者や、外国語が話せる者、動物の健康について資格のある専門家で安楽死や長期間の精神安定処置を施すことが認められている者等）
- 緊急時のスタッフのスケジュールとそれに伴う手順（例えば、災害時にスタッフが手順どおり報告を入れたり、電話を入れたりするか、あるいはスタッフの連絡網が形成されるかなど）
- もしあるとすれば（非営利組織）幹部の役割
- スタッフ、ボランティアの特別任務（他のチームなどに対するもの）

## ネットワークの点で考慮すべき事項

計画には他の組織や機関との協力協定が盛り込まれるべきである。こうした協定は、災害が起こる前に結ばなければならない。また、担当が変わって意志疎通が損なわれることがないように、定期的に連絡をとって確認を怠らないようにすべきである。防災計画ファイルには以下のものが含まれるべきである。

- 地域及び近隣管轄区域の政府機関、非営利緊急援助機関のすべての連絡先名と電話番号
- 州及び国立動物保護組織すべての連絡先名と電話番号（HSUSへの連絡は、貴方の地区のHSUS事務所かHSUS災害救助計画コーディネーターのスティーブ・ディクスタイン：電話202/452-1100まで）
- 州（隣接州も含む）の全ての救護所のリスト
- 獣医師の住所と電話番号リスト
- 他の機関や個人との書面による協定

また動物救済機関は、前もって以下の団体や機関と連絡を取るか、協定を結んでおくことを考えるべきである。

- ・アメリカ赤十字支部
- ・救世軍
- ・警察関係機関
- ・国家警備隊
- ・消防署
- ・救急車サービス
- ・マスコミ
- ・ハム無線家
- ・漁獲・狩猟管理課
- ・家畜組合/ 農業局
- ・馬組合
- ・ケンネルクラブと宿泊型ケンネル
- ・厩舎
- ・定期市広場、ロデオ場
- ・動物園、野生動物公園

## 機 器 と 備 品

計画には、様々な緊急事態の際に必要な機器と備品のリストを加えなければならない。以下の品目を揃え、災害時や似たような状況の時に他の機関や個人の手に渡ってしまわないよう確保しておくべきである。

### 〈通信機器と設備〉

- ・移動無線
- ・携帯ラジオ（受信機）
- ・移動電話
- ・必要な量の新しい電池
- ・基地備品

### 〈動物を管理する為の車両〉

- ・施設に割り当てられた車、トラック、トレーラーをすべて一覧表にする（四輪駆動、無線装備、バンパーに取り付けるパワーウインチ装備、動物輸送用の仕切り、ライトバー、スポットライトなどの有無を明記すること）

### 〈動物を管理する為の車両〉

- ・施設に割り当てられた車、トラック、トレーラーをすべて一覧表にする（四輪駆動、無線装備、バンパーに取り付けるパワーウインチ装備、動物輸送用の仕切り、ライトバー、スポットライトなどの有無を明記すること）

### 〈動物のオリの収容能力〉

全スタッフ、ボランティアは、緊急時に、施設に収容できる動物の数と種類を、把握していなければならない。以下の事項を確認した上で、収容量を決定すべきである。

- ・犬舎と犬用の囲いの数
- ・犬猫用のオリの数
- ・独立犬舎、オリの数
- ・隔離犬舎、オリの数
- ・小動物用のオリまたは囲いの数
- ・犬猫用の携帯かごまたは容器の数
- ・自動施錠の夜間預かり箱の数
- ・犬猫生け捕り用の罠の数
- ・馬及び家畜用の設備または囲いの収容能力
- ・馬及び家畜の移動用オリの収容能力

### 【11ページ写真説明】

災害時には、混乱状態となり、必需品の十分な確保は困難となる。そこで、今のうちから他の機関と協力して、団体への品物の調達を図り、備蓄を心がけておけば、明日にもおそってくるかもしれない災害に対しても、心強い備えとなるだろう。

### 【12ページ囲み記事】

## 〈災害用品・各種災害用チェックリスト〉

通常使用する機器、備品に加え、以下の品目を準備することを勧める。リストの品目の横の文字は、その保管場所として望ましい場所を示している。すなわち通常のシェルターを(S)、動物管理用車両を(V)、避難所を(T)、各種災害用キット（緊急時に役立つ様々な機器類

の収納庫) を (MK) で示す。

- 業務用救急箱 (S) (V) (T) (MK)
- 消火器 (S) (V)
- エアフィルターマスク/バンダナ (S) (V) (MK)
- 安全帽 (MK)
- スタッフ/ボランティア/緊急避難場所のリスト (S)
- 携帯無線機 (S) (V) (T) (MK)
- 地図帳 (S) (V) (MK)
- 道路灯 (V) (MK)
- 紙挟み (S) (V) (T) (MK)
- 毛布 (MK)
- 捕獲棒、捕獲網 (S) (V) (T) (MK)
- 屋外用麻酔機器 (S)
- 馬/家畜用トレーラー (S)
- 馬用目隠し (S) (MK)
- アンダーソン馬吊り帯 (又は同種の馬、家畜吊り網) 及び腹帯 (S) (MK)
- 端綱及び引綱 (S) (MK)
- 投げ縄 (S) (MK)
- 簡単な修理用の標準工具セット (金槌、チャンネルロックペンチ、クレセントレンチ、ドライバーセット、電気テープ、釘セット、留め具等) (S) (T) (MK)
- 36インチ枠付きのこぎり (MK)
- 弓鋸 (S) (MK)
- ボルトカッター (S) (V) (MK)
- シャベル (S) (V) (MK)
- 斧 (S) (MK)
- フェンスペンチ (MK)
- 手動ティーポストドライバー (MK)
- ティーポスト (2ダース) (MK)
- スムースワイヤー (11ゲージのもの300 フィート) 又は縄付き好視界テンプフェンス (MK)
- 強力なハサミ (S) (T) (MK)
- 金てこ (S) (V) (MK)
- 「スリムジム」 (ロックされた車を開ける道具) (MK)
- 折りたたみナイフ (MK)
- ナイロンロープ (S) (V) (T) (MK)

- 防水シート (S) (T)
- 巻き上げ機 (S) (V)
- 電池入り懐中電灯 (S) (T) (V) (MK)
- 電池付き水上灯 (S) (MK)
- ラジオと予備の電池 (S) (T)
- ろうそく／マッチ (S) (T)
- 動物に必要なあらゆる情報とその複数のコピー（地域内の施設向けには同一のフォームが望ましい） (S) (V) (T) (MK)
- ボールペン（予備用）、マーカー (S) (V) (T) (MK)
- IDバンド、名札、首輪 (S) (T) (MK)
- ナイロン引綱／ACO 引綱 (S) (T) (MK)
- 動物用担架 (S) (V)
- 携帯用ペットキャリヤー／ダンボール製キャリヤー (S) (T)
- 予備の携帯用ケージ (S) (T)
- ゴム長靴 (S) (V) (T) (MK)
- ゴム手袋 (S) (V) (T) (MK)
- 革製（又は合成）保護手袋、長手袋 (S) (V) (T) (MK)
- 水不要のハンドクリーナー、使い捨てハンドタオル、ペーパータオル (S) (V) (T) (MK)
- 新聞紙 (S) (T)
- 蓋つきゴミ容器 (S) (T)
- 折りたたみ簡易ベッド及び寝具類 (S) (T)
- 様々な緊急時に、飼い主にアドバイスする為の単純な記入式新聞記事 (S)
- オフィスの職員用の非常用飲料水／缶詰／調理道具 (S)
- 携帯用発電機／非常用照明（及び燃料、電池） (S) (T)
- 携帯食器 (MK)
- 水樽 (S)
- プラスチック冷蔵庫、10 ガロン貯水容器 (MK)
- モーター、オール、救命胴着を備えた簡易ボート（膨張式又はアルミ製） (MK)
- 吸収剤（ネコ用寝わら等） (S) (T)
- 寝わら箱 (S) (T)
- 重症の動物を安楽死させるための多量の催眠剤ペントバルビタールと注射器／針セット (S)
- 医療廃棄物と正しく表示した容器 (S) (V) (T)
- 死体用ポリ袋 (S) (V) (T)

# 〈災害時における動物保護員の為の健康保全ガイドライン〉

H S U S 防災計画コンサルタント・獣医師ポピー・ママト

災害地域で働く際、動物保護管理機関のスタッフやボランティアは、災害に伴って起こる健康上の危険から身を守る手段を講じなければならない。こうした危険性の存在は化学的流出、毒物漏れの例を見れば明白であろう。あるいは、気候や衛生水準の変化によって生じる種々の寄生虫の数の増加の方が一層潜行的で危険かもしれない。

多数の効果的ワクチンや薬が市販されており、我々のほとんどは、小学校に入る前にそのうちの幾つかを幼児期の一連の義務接種として受けることを求められている。では、災の作業に備えてこの内のどのワクチンやその他の予防措置を各人は受ければよいのだろうか。幼児期の義務接種は別として、アメリカ合衆国において災害時に動物を守る仕事をする人々にとって、とりわけ重要な予防措置は、狂犬病の予防接種、破傷風のワクチンを受けることである。次の段階として個人の衛生に関する勧告も厳しく守られなければならない。その他にも、それほど重要ではないが、幾つかの対策が提示されている。

以下に述べる注意事項は最も基本的な予防対策として意図されたものである。ガイドラインは、主として連邦防疫センター(CDC)の情報に基づき、アメリカ合衆国内での活動のみに関するものである。海外に出向く場合は、かかりつけの内科医かCDCに事前に相談しなければならない。いずれにしろ、災害救助隊、ボランティアが心得ておくべきことは、ワクチンや投薬は万能ではなく、常識と個人の衛生観念の代用品にはならないということである。

## 予 防 接 種

### 〈幼児期のワクチン〉

現地で働く人は、全員、以下の幼児期の義務接種及び必要な追加接種を済ませているという証明をしなければならない。

- ・ジフテリア
- ・破傷風/百日咳
- ・はしか
- ・おたふくかぜ
- ・風 疹
- ・小児マヒ
- ・インフルエンザ

### 〈破傷風〉

初回接種として（一般に幼児期に行われる）3ドースのトキシイドが投薬される。1回目の接種後、4～8週間後に2回目の、6～12カ月後に3回目の接種が行われる。追加接種は10年毎に行われなければならない。個々の傷は、洗浄及び抗毒素が必要かどうかを判断する為にできるだけ早く内科医の診断を受ける必要がある。刺し傷は最も破傷風に感染し易い。

### 〈狂犬病予防〉

動物保健に係わる人は、狂犬病予防注射を受ける必要がある。これは3回の連続接種に始まる。使用されるワクチンの種類、量により、皮下又は筋肉内に注射する。1回目の接種後、7日後に2目、14日又は21日後に3回目の接種が行われる。

血清抗体価を調べる為に1年おきに血液を採取することが必要である。もし血清抗体価が1：5未満であれば追加接種が必要である。抗体価検査をしないで追加接種を行う方法もある。実際には、幾つかの州公衆衛生局は、1年おきの追加接種を勧めている。

### 〈狂犬病との接触〉

予防注射を受けていない犬や猫、家畜が狂犬病ウィルスに感染する可能性もあるが、北アメリカではタヌキ、スカンク、コウモリ、キツネ、コヨーテ等が主たる媒介動物である。狂犬病ウィルスとの接触は、噛み傷、掻き傷、擦り傷、開いた傷口又は唾液その他の感染物質により汚染された粘膜などで起きる可能性がある。

#### ・非接種者の接触

狂犬病ウィルスに接触した疑いのある者は、即座に全ての傷口を石鹼と水で徹底的に洗浄し、接触後24時間以内に治療を受けなければならない。1／2ドース以内の狂犬病インミュノグロブリンを傷口の回りに注射し、残りのドースをお尻に筋肉注射する。さらに1ドースの狂犬病ワクチンを5回注射（腕に筋肉注射）する。

#### ・ワクチン接種者の接触

全ての傷口を石鹼と水で徹底的に洗浄する。狂犬病ワクチン（非インミュノグロブリン）のみを1ドース注射し、さらに3日後に1ドース注射する。

### 〈予想されるその他の予防接種〉

#### ・A型肝炎

この病気は、人と人との接触、汚染された水や氷、貝類、生の果物や野菜、完全に火の通っていない食物、汚染した調理器具等を介して感染する。この病気は、発展途上国では至る所で見られるが、アメリカ合衆国ではそれほど広まっていはいない。しかし、災害時では衛生に問題が起こる為、流行する恐れがある。そこで食物に触る前には徹底的に

手を洗ったり、汚染の可能性のある水は沸騰させる等の一定の予防措置が重要である。このウイルスは、沸騰した液体、摂氏85度で1分間調理された食物、塩素消毒した水などの中では死滅する。予防法（ウイルス感染の防止）としては、インミュノグロブリンGを使用し、長期間、旅行したりウイルスと接触する場合等では5ヵ月毎に一回接種しなければならない（ワクチンは開発されているが、認可されていない。）。

#### ・ ペ ス ト

野生げっ歯類のペストがアメリカ合衆国の西から1/3の地域、特に南西部で見られる。野生のげっ歯類はこの病気の宿主であり、また彼らについているノミも同様である。犬や猫等その他の哺乳類が人間への感染ルートとなるのである。肉体的接触、皮膚の擦り傷、噛み傷は全て病気を発生させる可能性がある。ペストの人ワクチンの有効性はまだ照合実験では証明されていない。菌との接触期間には抗生物質療法として500mgのテトラサイクリンを1日4回服用することが有効である。

## その他の予防ガイドライン

### 〈水の浄化〉

多くの災害時は衛生状態が悪化する為、救助隊は、自分達が飲料その他の目的に使う水源を心得ておかなければならない。ビン入りの水が手に入る時はいつでもそれを利用する。飲料水以外の水で氷や、その氷の入った飲み物を作ってはならない。歯磨きや果物、野菜を洗う時は浄化された水を使わなければならない。

沸騰は、最も信頼できる水の浄化法である。水を強烈に沸騰させた後、室温まで冷ます。塩素錠剤等の浄化錠剤は、消毒剤として利用できるが、水のpH、温度、有機成分等により殺菌力は大幅に変化する。

ヨードは塩素よりも信頼できる消毒薬である。ヨードチンキ(2%)を使用しすること。澄んだ水なら1クォーター又は1リットルに5滴、あるいはわずかに臭ったり、濁った水なら1クォーター又は1リットルに10滴加えること。

### 〈食料〉

下水設備や衛生状況が悪化している地域では、魚、貝類、肉、或いは生の果物、野菜（むくことのできる皮がついているもの以外）を食べてはいけない。

### 〈個人の衛生〉

以下の2点、すなわち、排泄物が多いの寄生虫病、腸疾患の主たる経口感染源となって

いる点、そして災害時には往々にして水源に限られる為（一方では洪水時には水が氾濫する為）、救助隊が排泄物に触れる確率がしばしば高くなる点を忘れてはならない。したがって救助隊は食べたり、口に何か物を入れる前には徹底して手や爪を洗わなければならない。

#### 〈衣 服〉

厚い長ぐつ、長袖シャツ、長ズボンは、虫やへびに噛まれる危険性を少なくするであろう。マスクは遺体から発生する臭気を吸い込むのを防止する。防水性の装備や長ぐつ及び不燃性の装備もまた推奨できる。

#### 〈薬物その他の製品〉

予備の処方薬、ビタミン、酔い止め、眼鏡、コンタクトレンズ、下痢止めを持参すること。また温かく、湿度の高い状態のなかでは、虫除けがあると大変助かる。さらに日焼け止め、ハンドローション、消毒石鹸、マウスウォッシャーは病気の感染から身を守る働きをする。

#### 〈個人の医療記録〉

臓器提供者であるかどうか、血液型、薬物アレルギーその他の医療情報、また最近受けた予防接種の内容を記した個人IDを持参すること。

#### 【写真説明】

##### 13ページ

被災地には健康への潜在的な危険がひそんでいる。汚染された洪水はその主たるものである。危険を最小限にとどめる為には、適切な予防注射から防護服に至るまで、必要な予防措置を講じなければならない。

##### 14ページ

動物の死骸その他被災地に共通した状況は、健康衛生上の細心の予防措置が重要であることを印象付ける。

## 【転載用】

このメッセージは、多くの地域で配付する為にここからはずし、地域の印刷所で多量に複写できるし、地方新聞や貴方の組織のニュースレターに折り込むこともできる。

---

# 災害が起こったら、ペットを守ろう！

家族の避難計画を準備しておけば皆安心である。大規模な自然災害であれ、一時的に家から避難する程度の緊急事態であれ、災害の際にはそれが家族を守る最良の方法である。ペットを防災計画に含めることは絶対必要である！ このページを見易く、手近な所に張り、家族全員が必ず計画を頭に入れておくようにすること。犬や猫の最新の身元証明を常に身に付けさせる。首輪がきちんと合っているか確かめること（鎖付きの犬の首輪は避け、猫には離脱式の首輪を）。ペットの居場所が分からなくなった時の為に、友人や家族の電話番号をIDタグに記入しておくことは、良い考えである。緊急用の備品にペットのはっきりした特徴を示すような最近のカラー写真を入れておくこと。もしペットと離れ離れになったら、これらの写真が彼／彼女を見つける手助けになるであろう。

もし災害が今にも起こりそうになったら、ペットを即座に家の中に入れること。できるだけ早く引き綱に繋ぐか、キャリアーに入れ、監視下に置くこと。

災害は、不在の時に突然襲うこともしばしばある。出かける時、ペットを屋内に入れ、首輪とIDタグを付けておけば、ペットの安全度を高めることができる。不在の時に、喜んでペットを避難させてくれるような隣人と打合せしておくことも考えなさい。その人が貴方のペットを知っており、非常用品の場所を知っているか、そして貴方の家の鍵を持っているかを確認しなさい。彼又は彼女に指示と電話番号を渡しておきなさい。

## 〈避難する時はペットを連れて行くこと〉

ペットを守る最良の方法は、自分のそばに置くことだ。しかしペットを連れて行くには特別な計画が必要となるので、以下の手順に従うこと。

- ・災害に襲われる前に、ペットの安全な落ちつき場所の確認をする。避難所では一般にペットを受け入れてくれない。

- ・すぐ近くか、家から適切な距離にあるホテル、モーテルに電話をしてペットを受け入れるかどうか、それにはどんな条件があるのか、ペットの大きさや数に制限はあるのかどうかを聞くこと。
- ・地域の宿泊型ケンネルか、宿泊設備を持つ獣医師に電話をかけて、緊急時ないしは災害時に収容できるペットの数を聞くこと。
- ・友人、家族にペットの里親になってくれるかどうかを聞くこと。

〔注：シェルターの中には、災害時に個人のペットを預かり、世話をする所もあるが、あくまでも最後の手段であると考えること。〕

#### 〈ペットの為の防災用品〉

- ・携帯用キャリヤー（ペットには必須）
- ・エサ、水用のボール
- ・ペットのエサとプラスチックボトル入りの水の備蓄
- ・猫の敷きわらと敷きわら箱
- ・普段飲んでいる薬の備蓄
- ・救急箱
- ・予防注射記録などを含む健康記録
- ・ペットのエサやりのスケジュール、食事、薬及び特別な要望に関する指示
- ・引き綱

#### 〈ペットを置いて出かけなければならない時〉

ペットを一人ぼっちにして出かけると、ペットが怪我をしたり、死んだりする危険性がより高くなるので、できるだけペットを連れて出かけるようあらゆる努力をすること。もしやむを得ず置いて行かなければならない場合、とるべき事前対策は次のようなものである。

- ・バスルームのように窓が無く、換気設備のある、安全で安定した部屋に行けるようにしておくこと。少なくとも3日間分の十分な食物を置いておくこと（かかりつけの獣医師にペットに最も適したものを前もって聞いておくこと）。十分に水を与えることは、非常に重要である。ストレスがかかると、1匹が1日で数ガロンも水を飲むこともあり得るので、簡単にひっくり返らないような容器に水をいれ、バスタブや流しの排水口を明けたままにして、蛇口から水がしたたり落ちるようにしておくこと。もし洪水の恐れが

ある時は、高い位置や、カウンターに登れるようにしておくこと。慣れ親しんだ寝具とおもちゃを置いておくこと。

- 犬と猫を同じ所にとじこめないこと。小動物や鳥は安全なカゴに入れること。
- ペットが適切な身元証明を身に付けているかを確認すること（首輪とタグ）。
- 玄関の戸に、中にどんな動物が、どこにいるか、を示した注意書きをし、獣医師の名前と電話番号に加え、自分の連絡先の電話番号も記すこと。
- もし貴方が鳥を飼っていたら、エサの量をコントロールし、予備の水を補給するディスプレイの中にエサを入れること。鳥は、生きる為には毎日エサを食べなければならない。鳥籠が揺れたり、落ちたりしないよう固定させておくこと。安全の為又は光をさえぎる為に薄い布か紙で籠をおおうこと。

決して、外に犬を繋いだままにしておかないこと！

H S U S

（ここに貴方の機関の名称と所在地、電話番号を入れる）